

# 発掘成果をふりかえって 2015

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(公財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



出土した弥生土器

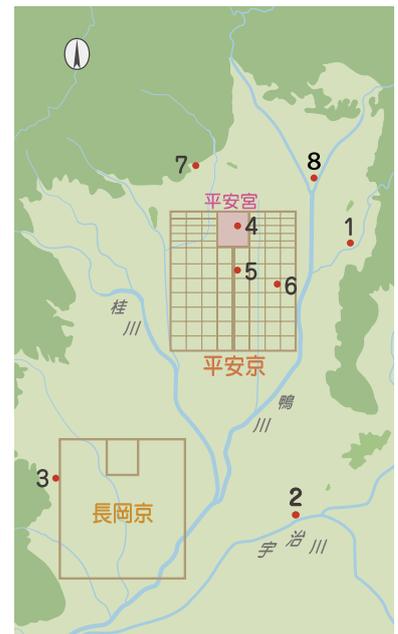
## 1 円勝寺跡・成勝寺跡・岡崎遺跡 左京区岡崎円勝寺町（京都市美術館敷地内）

弥生時代後期の溝を検出した。溝は北から南西方向に延び、幅が2.5m・深さが0.6mあり、断面は逆台形である。集落の南東側を囲う環濠の一部と考えられる。完全な形に復元できる土器が多量に出土した。



## 2 伏見城跡・桃陵遺跡 伏見区桃陵町（京都市桃陵中学校校内）

弥生時代の方形周溝墓、古墳時代の竪穴住居を検出した。中世には堤防を築いて流路を制御し、宅地や耕作地として使用された。安土桃山時代以降には、伏見城の城下町として大規模な整地を行なうという歴史の変遷を追うことができた。



発掘調査の位置



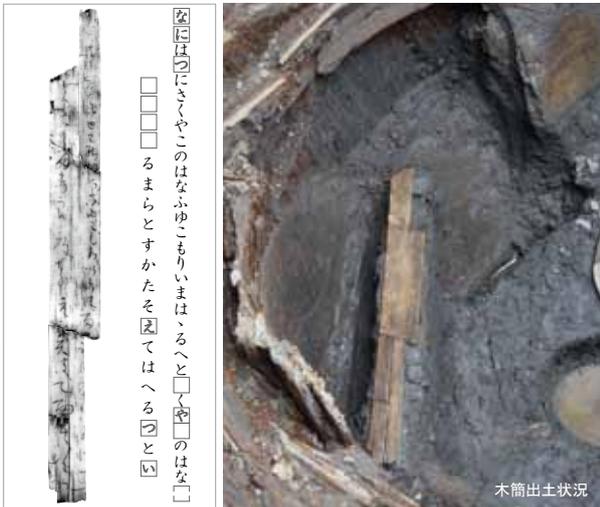
3 芝1号墳 西京区大原野石見町

古墳時代後期の前方後円墳。後円部の中央で横穴式石室を検出した。石室の形態と出土遺物から、乙訓最古の横穴式石室とみられる。石室の入口から4基の円筒埴輪が出土した。



4 平安宮内裏跡(弘徽殿・登華殿) 上京区出水通土屋町東入東神明町

内裏内郭の北西部で石組み雨落溝と掘立柱建物を検出した。内裏図などから、検出した溝は弘徽殿の北西部と登華殿の南西部とみられる。内裏の建物構造を知る貴重な成果である。



5 平安京左京四条一坊二町跡 中京区壬生朱雀町

平安時代中期の井戸から出土した木簡には「なにはつ」の歌の全文が仮名文字で記されていた。仮名の成立と展開を知る上で重要な資料となった。左は赤外線写真と釈文。



6 平安京左京五条三坊十町跡・烏丸綾小路遺跡 下京区綾小路烏丸西入童侍者町

古墳時代から江戸時代までの遺構・遺物を検出した。室町時代では風呂の遺構があり、出土遺物から寺院が存在したことが推定できた。史料にみえる「五条寺」との関連性が注目される。



7 特別史跡・特別名勝 鹿苑寺(金閣寺)庭園 北区金閣寺町

丘陵裾部で室町時代の平窯を検出した。窯は3基見つかっており、そのうちの1基は、ロストル(瓦を置く台)の最下段が残存する。小規模であるが、北山殿の所用瓦を焼成したとみられる。



8 史跡賀茂御祖神社(下鴨神社)境内 左京区下鴨泉川町

南側の調査区で平安時代後期の土壇とそれともなう石組みの地業、北側の調査区で『下賀茂河合舎堂絵図』に描かれた江戸時代の神宮寺に関連する礎石建物や井戸などの遺構を確認した。